

＜鯖江市伝統野菜吉川ナスの市場評価について＞

平成28年2月29日

武生青果株式会社

評価内容

『吉川なす』が高評価で取引されている要因

○生産過程について

1. 7月～10月のナスは露地物が中心だが、吉川なすはハウス栽培が基本
2. 少数精鋭の熟練農家が生産、また組織化されることで品質、数量が安定している
3. 栽培歴史が古い、《伝統のふくい野菜》の一品
4. 商品の出荷に関して厳しい品質検査が行われている

○流通過程について

1. 「道の駅」等、直売で超人気、加工品（バーガー）も好評
2. 地元の学校給食で毎年、利用されている
3. 多くの料理人から、ナスの種が小さくて煮崩れしないと喜ばれている
4. 地元では昔から煮物、漬物の材料として重宝されている
5. 一般に地場野菜で出荷されている丸ナスは、1玉30～50円位の価格で推移、吉川ナスは1玉100円以上の高値がつく

○商品特徴について

1. 大きさは直径10cm程のソフトボールくらいで、綺麗な球形の物から、少し巾着っぽい形のものまであります。
2. 果肉は固めで締りがあり、緻密で煮た時にも煮崩れしにくいのが特徴
3. 油との相性が良く、田楽等に適しているが煮物や漬物にも使われる。果実の色は黒紫色で、光沢が良い。

以上、吉川なすは福井県内で家庭用、業務用ともに引き合いが強く、《伝統のふくい野菜》15品目で最も愛されている地場野菜の一品です。

鯖江市伝統野菜吉川ナス栽培指針

1. 吉川ナスの特性とポイント

- 1) 生育適温は 22～30℃。(17℃以下で生育遅れる) 霜には非常に弱い。
- 2) 花粉の発芽適温は 20～30℃。
(15℃以下の低温、35℃以上の高温で着果不良になる。)
- 3) 土壌の乾燥に弱く、常に適度な水分が必要。特に、開花～結実期は必要。
- 4) 最適土壌 pH6～6.8。(酸性にしない)
- 5) 千両ナスに比べて、枝が開く(開帳する)ので、日当たりが良くなるように株間を十分にとる。
- 6) 果実の重みで枝が折れやすいので、枝をしっかり誘引する。
- 7) 開花(着果)から 20 日程度が収穫適期。収穫が遅れると種が固くなり品質が低下する。
- 8) 着果数が多い場合は、摘果を行う。(つやなし、空洞果防止)
- 8) 1 果重 300 g 程度のものを 1 株当たり 30～40 個収穫できればよい。
- 9) こまめな摘葉や剪定を行う。剪定遅れ、一度に剪定を行うと樹勢が弱るので注意。

2. ナスの仕立て方と圃場準備

1) 風による傷果を防ぐ(露地栽培)

- ①ナス果実は枝葉とこすれ合うと傷がつくので、露地栽培はナス圃場のまわりに防風ネット等の防風対策をする。
- ②主枝となる枝は必ず誘引し、風で揺れないようにしっかり固定する。
- ③枝の誘引には、重さに耐えられる丈夫なヒモを使う。(トマトを参考に)

2) 圃場条件に合わせた仕立て計画

- ①基本は、1 うね 1 列植え。枝は主枝 3～4 本仕立て、V 字(U 字)型。
1 うねに対し、2 本のアーチ支柱が必要なので、畝数が複数ある圃場向き。

3. 圃場準備・施肥

1) トナシム台木の特性

- ①赤ナスに比べ、低温期の生育がやや遅い = 初期の保温をしっかりと行う。
- ②赤ナスに比べ、吸肥力が強く、樹ができやすい = 緩効性を中心とした元肥施肥
- ③赤ナスに比べ、マグネシウム欠乏がしやすい = 元肥・追肥で苦土を施用する

2) 施肥の考え方と施肥例

ナスの目標収量 : 露地栽培で10a当り10トン(7~10月長期どり)

栽培時期全体で、10a当り窒素30kg, リン酸10kg, カリ50kg, (苦土6kg)

元肥は、窒素、カリを全体の半量、リン酸を全量入れる。

元肥の窒素は、初期生育を抑えるため、緩効性肥料主体とする。

3) 圃場準備

- ①定植2週間前に、土づくりとして堆肥、油かす、石灰を施用して耕うんする。
 - ②定植7日前に元肥を施用し、うね立てする。
 - ③うねは、なるべく大きく、高くする。(うねの天幅80cm程度、高さ30cm)
- 露地は地温が低いので、透明または初め黒マルチがよい。ハウスは白黒ダブルでよい。
ハウス栽培はマルチの中に必ず灌水チューブを設置する。(露地でもできれば)

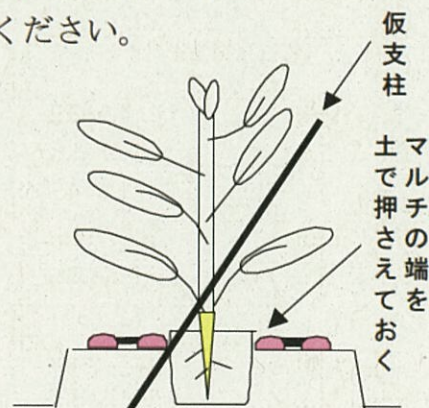
4. 定植

1) 定植日

- ①ハウス栽培は4月下旬から定植可能です。夜間の保温と遅霜対策をしっかりと行う。
- ②露地栽培は5月上旬~中旬の、暖かく、風の無い日に定植してください。

2) 定植方法

- ①本葉7~8枚、1番花の開花始めの苗が定植適期。
- ②植付け深さは、鉢土が見える程度の浅植えにする。
(茎が土に埋まらないよう)
- ③定植後は鉢の周りにかん水し、鉢土と植穴の隙間をなくす。
- ④株間80~100cm、1条植え



整枝・せん定(露地・ハウス共通)

- ・誘引する枝(主枝)が決まったら、主枝以外の枝(側枝)は、せん定を行う。
- ・古い葉(地面についた葉)は除去し、風通しを良くする。
(葉かきは少しずつ行う。)

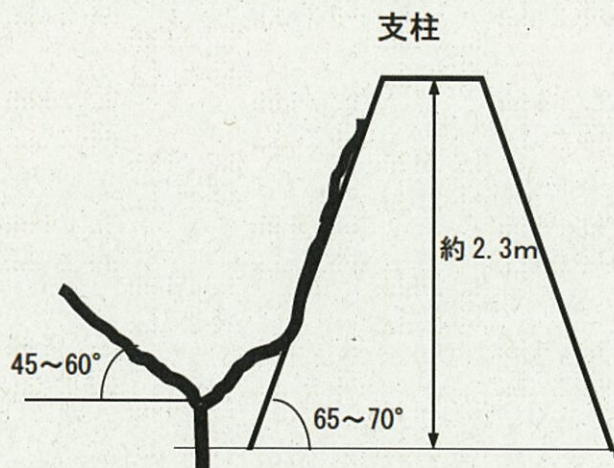
※側枝の剪定方法

- ①開花している花の上の葉を1枚残して摘心する。
- ②側枝の第1果実の収穫時に、2芽(2葉)残して切り戻す。

誘引、整枝

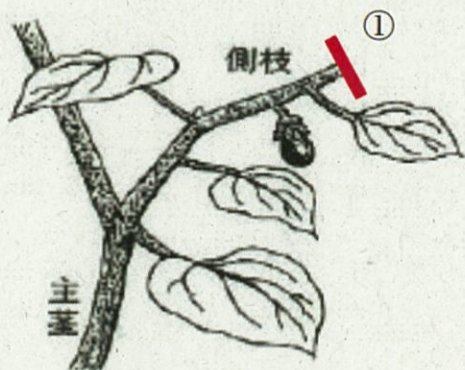
誘引方法

- ・ 枝の誘引角度は 60～65 度にする。
(枝が立ち気味だと、草丈が早く伸びる)
- ・ 誘引ひもを支柱に固定し、枝揺れを防止する。
- ・ 誘引ひもは枝分かれ部分の下から結ぶ。



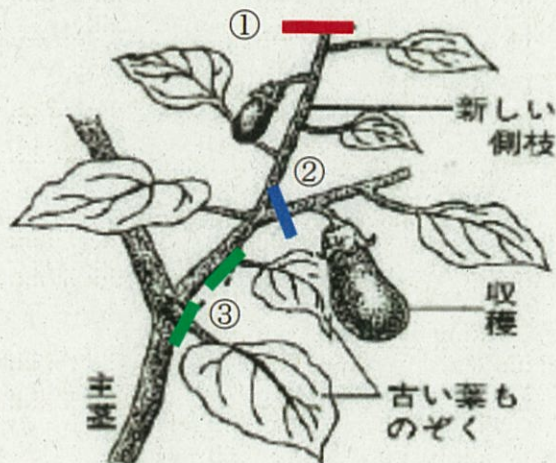
側枝（成り枝）のせん定方法

- ・ 側枝はナスの花の上の葉を 1 枚残して芯を止める。(線① 赤)
- ・ 側枝のナスは収穫時に枝も一緒に切る。(ナスと真下の葉のあいだを切る、線② 青)
- ・ 傷果防止のため、通常時でも、ナスにふれる葉があったら取り除く。(線③ 緑)



側枝の芯を止める

※主枝は、果実のみを収穫する。



収穫時にナスがついていた枝も切り落とす

収穫時期

収穫の目安

- ・ 開花後 3 週間程度を目安に収穫する。(大きさでなく、日数で判断する。)
- ・ 収穫適期を過ぎると (25 日以上)、果実につやがなくなり、茶色っぽくなってくる。
- ・ 1 果重 300 g 程度のものを 1 株当たり 40 個程度収穫できればよい。
- ・ 花落ち部分が真下になっていないもの、果実の表面が (かぼちゃ) のようにデコボコになっているものは取り除く。

追肥

- ・ 収穫が始まったら、樹勢を見ながら 10～2 週間おきに追肥を行う。
- ・ 株元には絶対にやらないように。畝の肩部分に施す。
- ・ 灌水チューブがある場合は、液肥で対応してもよい。

吉川ナス出荷基準表

①吉川ナス品位基準

区分	選 別 基 準
秀	品種固有の特性を備え、損傷なく、変形、日焼けのない物
優	秀に次ぐ品質の良い物(加工用として出荷)
良	優に次ぐ物(出荷はしない)

②大小基準

区分	1個の重量	選 別 調 整
大	290g以上	1 形を揃え過熟果(種ナス等)を除く 2 果梗を切りそろえる 3 病害虫果を除く
中	240g以上 290g未満	
小	200g以上 240g未満	